

燃料電池バス「SORA」に試乗する関係者＝静岡市葵区で



## 知事ら関係者試乗

# 燃料電池バス導入へ加速

県が二〇二〇年中に県内の路線バスなどに実用化を目指す燃料電池バスの関係者向け試乗会が十九日、静岡市葵区であった。来月には袋井市で電気自動車(EV)を使った自動運転の実

県民向け  
**23、24日 清水で**

証実験を予定し、次世代車の活用に向けた動きが加速している。川勝平太知事がトヨタ自動車「SORA(ソラ)」に試乗した。燃料電池車は水素と空気中の酸素の化学

反応で生じる電気を動力とし、二酸化炭素を出さない。災害時は電源にもなる。今年三月から販売され、東京都が導入している。価格は約一億円。通常の路線バス(約二千万円)と同程度で購入できるよう自治体が補助金を検討している。知事は「利用しやすい

自動運転の実証実験計画を巡る動き 県、ダイナミックマップ基盤(東京)、タジマEV(同)、静岡理工科大などが2018年5月、プロジェクトを発足。19年1月15、25日に小笠山総合運動公園周辺(袋井市)でタクシー、バス、超小型の3タイプの車両が運転手なしの全システム自動運転、運転手付きのシステム自動運転などを試す。19、20年度には過疎地や中山間地、都市部で観光客の移動や渋滞対策、生活交通の確保に向けた実証実験をする。

デザインで乗り心地も快適。路線の面など早急に対応したい」と話した。県はバス事業者などに購入を促し、二〇年に一台、二五年に五台、三〇年に二十台の燃料電池バスが県内を走ることを目指している。九月に発足した官民の検討会が来年一月下旬に具体的な導入策をまとめる。スズキ、ヤマハ発動機などが参加する県EVシフト・自動運転化等対応研究会が十九日、知事に提出した話した。(三宅千智)

報告書によると、袋井市での実証実験をはじめ、二〇年度末までに県内の都市部や中山間地域などでEVを使った自動運転の実証実験を重ねる。研究会は六月に県が設立。次世代車への対応を四回協議し、実験計画や中小企業への支援策などを報告書に盛り込んだ。大聖泰弘委員長(早稲田大研究院次世代自動車研究機構特任研究教授)は「産官学で連携して他県から注目される実証実験になれば」と話した。